



新たに開発したシュークリーム「もちこ」を手にする大石さん（右）と平田さん。14日、天童市

小児がん克服菓子で応援

天童の中高生ボランティアシュークリーム開発

レモネードの販売を通して小児がんの子どもや家族を支援するチャリティー「レモネードスタンド」に取り組む天童市のボランティアアサークルが、材料となるレモンを使ったシュークリームを開発した。活動への認知度向上を目指してメンバーの中高生らが考案した。開発に協力した地元の菓子店「大坂屋」で17日に販売を始める。

シュークリーム「もちこ」（120円）は、大坂屋の人気商品「もちもちシュー」がベース。従来の自家製の白いクリームとレモン果汁などを加えた黄色の

レモン使い軽やかに

クリームの2種をもっちりした皮の中に入れた。甘さと酸味がマッチした軽やかな味わいに仕上げた。

街の清掃活動や活性化支援などに取り組む。レモネードスタンドは今年3月から県内各地で続けている。

14日に市内のイベントで実施したレモネードスタンドで先行販売。用意した200個を求め、行列ができる人気ぶりだった。

菓子企画リーダーを務める山辺高（山辺町）2年の大石璃虹さん（16）は「高校で学ぶ調理の知識をプロジェクトに生かしたかった」と話し、大坂屋での販売で「小児がんへの支援はもちろん、商店街の活性化にもつなげたい」と意気込んだ。

「病気へ理解広げたい」

菓子の完成を、より一層喜ぶ仲間もいる。レモネードスタンドのプロジェクトリーダーで東海大山形高3年の平田寧々さん（18）は元小児がん患者。小学3年で発症し、約1年間の闘病生活を送った。

「治療で髪の毛が抜けて顔もむくんで人の視線が怖かったが、病気を知り励ましてくれる仲間がいてうれしかった。菓子を通じてさらに活動を知ってもらい、病気への理解が広がってほしい」と願う。

大坂屋は日曜定休。「nico」のレモネードスタンドでも随時販売する。売り上げのうち、1個当たり20円をレモネードスタンド普及協会（東京）に寄付し、小児がん患者の治療支援に役立ててもらう。